

認可外保育施設の保育料について

提案内容	<p>雲南市は手厚い保育料補助等がとても良い反面で在籍する保育園によって格差が生じており、保育料のために預ける事をためらったり距離のある保育園を選ばざるをえないことで結果として就業し辛い環境や、子育ての負担が増えてしまっていることもあるのではないのでしょうか。認可外保育施設についても第3子保育料免除以外にも減額等の制度の創設、適用を行う事で子育て世代の経済的負担軽減にもつながり、雲南市全体の子育て力の向上にも繋がるため検討をお願いいたします。保護者からの要望も多く、子育てに力を入れている雲南市だからこそ保護者からの期待も高いのではないのでしょうか。</p> <p>ぜひご検討いただきますようお願い申し上げます。</p>
回答	<p>ご提案ありがとうございます。</p> <p>令和元年10月より3歳～5歳及び0歳～2歳までの住民税非課税世帯の子どもを対象として幼児教育・保育の無償化がはじまりました。雲南市ではさらに市内の認可保育施設において子育て世代の経済的な負担を軽減する措置として、第3子以降保育料の無料化、多子軽減、土曜減免、副食費の無料化などの制度を設けながら子育て環境の整備を進めているところです。認可外保育施設においては3～5歳の児童、0～2歳住民税非課税世帯の児童、第3子以降の児童に対する保育料無償化、副食費の無料化を行っています。これらの負担軽減措置を含め認可保育施設と認可外保育施設の保育料の差が提案者様の指摘される格差であると推察されます。</p> <p>認可外保育施設である企業主導型保育所ができた背景として、待機児童問題があります。保育サービスの不足や多様な働き方改革への対応不足により、仕事と子育ての両立が難しいという現状を改善するための施策として企業主導型保育事業が創設されております。基本的には企業が自社従業員のために開設される施設ですが地域枠の受け入れが可能であることから本市においても希望する保育施設に入所できない方が利用をされており雲南市の子育て環境にご尽力いただいているところであります。</p> <p>現在市内認可保育施設の入所定員に対する入所率は91.6%となっています。</p> <p>希望通りの保育施設に入所できず第1希望以外の施設へ入所される方もありますが、市内保育施設には空きがある状態で本市における待機児童数はゼロです。他市町村と比較しても保育料は低い水準であり保育料の負担軽減措置も他市町村と比較して高い水準であることから現在新たな保育料軽減措置を行う予定はありませんが、ご意見を踏まえ今後も子育ての環境整備について状況をみながら検討を行ってまいります。</p> <p>(回答部署：子ども政策局 子ども政策課)</p>